

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4270800370
法人名	有限会社 やまさき
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ
訪問調査日	平成 19 年 9 月 5 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 7 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270800370
法人名	有限会社 やまさき
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ
所在地 (電話番号)	長崎県松浦市志佐町浦免206番地 (電 話) 0956-72-1569

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成19年9月5日	評価確定日	平成19年11月7日

【情報提供票より】(平成19年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 8 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 6 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独)	(新築) 改築
建物構造	鉄筋平屋 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 50 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(平成19年 8月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 9 名	女性 9 名
要介護1	7 名	要介護2	2 名
要介護3	5 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢	平均 82 歳	最低 54 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	押淵病院、高島歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の中にあるグループホームひなたぼっこは、事業所名が示すように、職員が利用者に対して家族のような温かさをもって接しており、利用者が世話をしている玄関前の菜園には季節の野菜や果物の木が植えられており、建物の中央の高い吹き抜けや玄関横のサンルーフは、威圧感がなく広くゆったりとした空間を作り出し、利用者が安心して生活ができる雰囲気が感じられる。

職員は、利用者がそれぞれの得意分野で力を発揮してもらえるような場面作りに努め、感謝の気持ちを伝えて、ホームにとって自分が必要な人であると利用者を感じてもらえるように取り組んでいる。

運営者は、職員との信頼関係のもとに運営理念に沿って、共にケアに携わり、現場の意見を聞きながらケアサービスの質の向上に取り組んでおり、これからも利用者を主役とした家庭的な支援を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価から見えてきたいくつかの課題に対しては、改善への取り組みが見受けられたが、改善策の検討や取り組みの記録が残されていない。しかし、居室に引きこもりがちだった利用者に笑顔が見られる様になるなど、介護面での取り組みによる成果が表れている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価について、全職員に対して説明を行い、管理者がまず自己評価に取り組み、全職員に意見を求めながら、各項目に関するホームでの取り組みについて気づき等を話し合い、自己評価を行った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	現在、運営推進会議を開催していないが、「指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準」第85条に、運営推進会議について「開催しなければならない」と求められているため、基準の内容を再確認され、積極的に取り組み、行政等への働きかけを行いながら、早急に運営推進会議を開催されることを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族に対しては、月に1回手紙や写真を送付したり、家族が来訪した際に、利用者の暮らしぶりや健康状態などについて報告しており、笑顔の対応に心がけ、家族が話しやすい雰囲気を作り、家族からの意見や要望を聞きとり、その内容について速やかに対処したり、運営に活かしたりしている。また、意見箱を設置しているが、苦情相談窓口についての掲示は見受けられない。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	大正琴のボランティアや小学生の受け入れ、地域行事への参加など、少しずつ地域の人々との交流ができ、散歩中に声をかけられたり、近隣の方にホームの行事に参加してもらうなど、理解が得られるようになりつつあるので、広報紙発行の再開や地域での活動などに取り組まれ、地域におけるホームの役割を見出し、地域に開かれた活動を期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の名称である「ひなたぼっこ」の頭文字に沿って理念を掲げており、理念に基づいて、ホーム全体が家族のような温かみのある雰囲気づくりに努めている職員の姿勢が窺える。理念は事務所前に掲示しているが、訪問者にとっては小さく見えにくいように感じられる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者の理念や方針が職員全員に浸透しており、理念に沿って職員間で統一した支援を行うよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	大正琴や小学生のボランティアの受け入れ、地域の行事への参加を行っており、少しずつ地域の人々との交流ができ、散歩中に声をかけられたり、近隣の方にホームの行事に参加してもらったりと、理解を得られるようになってきている。	○	ホーム便りの作成を再開し、家族や地域へのアピールを行うとともに、様々な地域活動や行事の情報を集め、利用者と一緒に積極的に参加し、地域住民と付き合う場や機会を増やすよう取組まれることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価後に改善点について話し合いを行い、改善に取り組んでいるが、改善シートは作成しておらず、記録も残されていない。今回の自己評価は、全職員で何度も話し合いを行いながら取り組んでおり、外部評価や自己評価をサービスの質の確保に活かしていこうとする姿勢が見受けられる。	○	外部評価の結果をもとに改善策を検討されているので、検討内容や検討結果を記録するとともに、利用者家族へ外部評価について理解が得られるよう取組まれることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、現在のところメンバーが決まっておらず、開催される予定も立っていない。	○	「指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準」第85条に、運営推進会議について「開催しなければならない」と求められているため、基準85条の内容を再確認され、ホームが積極的に取り組み、行政等への働きかけを行い、早急に運営推進会議を開催されることを期待したい。

長崎県 グループホームひなたぼっこ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護の事務手続きの支援や地域福祉権利擁護事業の関係で、市の担当者と連携し情報交換を行っており、運営推進会議は開催していないが、市と連携してサービスの質の向上に取り組んでいこうと考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用者家族へ手紙や写真を送付するとともに、家族の訪問時に日々の生活の様子や健康状態、ホームの行事などについて報告をしている。また、金銭管理についての報告は出納帳の記録を確認してもらい、サインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族には、ホームの行事へ参加してもらえるように職員から積極的に声をかけたり、手紙やホームに訪れた際に常に職員から声かけを行いながら、何でも言ってもらえるような関わりや雰囲気づくりに努めている。また、玄関の事務室前に意見箱を設置しているが、苦情処理についての掲示はなされていない。	○	苦情処理担当、連絡先、相談窓口等について、分かりやすい掲示などによる家族等への周知に取り組まれることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族との信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えており、職員の離職がやむを得ない場合も、利用者への影響ができる限り抑えられるように、その時期や引き継ぎの面で最善の努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修については全職員に周知しているが、主に常勤者が参加しており、職員会議などにおいて報告したり、勉強会を行ったりしている。	○	研修会の復命書や勉強会の記録をファイル等にまとめて活用しながら、各職員の経験などに応じて、段階的に力をつけていけるように計画的な研修受講の支援に取り組まれることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国組織には加入していないが、地域のグループホーム協議会へ加入しているほか、他の事業所の見学や交流を図っており、今後は更に機会を増やし、他の事業所から学ぶことで視野を広げ、ケアサービスの質の向上につながるよう取り組むと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者や家族に、ホームの見学や体験入居をしてもらったり、職員が自宅へ出向いて暮らしぶりを伺ったり、ホームの行事に参加してもらうことなどを繰り返しながら、利用者に負担なく、安心してサービスを利用してもらえるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者から教えられることも多く、訪問調査時も、台所では利用者が手順よく食事の支度をしている生き生きとした姿が見受けられた。職員は、支援する側、される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるように場面づくりや声掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日々の利用者との関わりの中で利用者の意向の把握に努め、利用者の言葉や表情などから意向や希望を理解するように努力し、意向を確認するようにしている。以前、居室に籠もりきりだった利用者が、表情が明るくなり、食事を楽しそうに摂っており、温かい職員の声掛けや対応がなされていることが窺える。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の訪問時などに家族や利用者の意見や要望を聞き、計画に反映させるようにしており、担当者が作成した計画を職員全員で意見を出し合い検討している。		今後、利用者の視点に立ち、更に具体的な介護計画を目指して計画作成に取り組まれると、利用者一人ひとりがその人らしく暮らし続けることにつながるのではないだろうか。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月に1回見直しを行っており、計画に基づいた支援の実施状況や効果などを評価するとともに、利用者の状態などの記録から、状況の変化、家族や利用者本人の要望を把握しながら見直すようにしている。また、状態の変化があった場合は、随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、週1回看護師による問診を行うことで、できる限り入院せずに、ホームにて医療処置を受けながら生活が継続できるように支援しているほか、重度化した場合の終末期の対応等、必要に応じて柔軟な対応ができるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診しており、通院は基本的に職員が同行し、家族や本人と相談しながら状況や希望に合わせて家族が同行することもある。また、利用者のかかりつけ医、事業所の協力医療機関など、複数の医療機関と密に連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の気持ちを大切にしながら、家族と話し合い利用者が安心して終末期を過ごせるような支援に取り組んでおり、利用契約時にホームの支援体制等について説明し、看取りに関する同意書にて同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の会話は、家族的で温かみがあり、利用者に馴染みのある方言を使って行われているが、親しみの中にも、利用者の尊厳やプライバシーを傷つけない言葉遣いや対応を日頃より職員間で徹底して行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	手作りの大きい日課表がホール中央に掲示されているが、職員はその日の利用者一人ひとりの体調や気分に合わせて支援を行っている。訪問調査当日は、ほとんどの利用者が賑やかにカラオケを歌い、楽しい時間を過ごされており、日頃の様子が窺えた。		

長崎県 グループホームひなたぼっこ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度や後片付けは、できる限り利用者と一緒にっており、利用者はそれぞれに役割を持ち、ホームにとって一人ひとりが必要な人である事を感じ取ってもらえるように、職員は利用者へ感謝の気持ちを伝えている。また、昼食時間は、利用者の希望により11時半からにしており、職員も利用者と同じテーブルで団欒しながら同じ食事をとっている。	○	利用者一人ひとりの好み、嗜好品を献立に取り入れる事はなかなか難しいようだが、利用者の誕生日の楽しみとして、嗜好品メニューを取り入れるなど、少しずつでも工夫しながら取り組まれることを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回午後に入浴時間を設けており、順番はその日の状況や希望を聞き、トラブルのないように配慮をしている。また、入浴を拒まれる利用者については、職員が時間を掛けゆっくりと話をし、快く入浴できるように支援している。	○	今後、夏場の入浴回数の検討をされ、シャワー浴などの対応をされることで、清潔の保持に心がけていただきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者本人や家族から生活歴などの情報を得て、園芸を楽しむにしている利用者へ菜園の世話をしてもらったり、毎日の家事を役割として行ってもらったりして、利用者がそれぞれに得意分野で力を発揮し、利用者がしたい事ができるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者それぞれに週1回程度外出をしており、ホーム全体では月1回外出の機会を設けている。また、外出を好まれる利用者には、病院受診の際、どこかに立ち寄るなど、外出時間を長くしており、利用者の満足が得られるよう努力しているが、ホーム側から、充分ではないという反省の声があった。	○	悪天候の場合の対応なども検討しつつ、利用者の外出への期待や楽しみにしている気持ちに沿えるような工夫をしながら外出の計画を立てられ、遠方への外出が容易でない場合には、ピクニックのような感覚で玄関先の芝生で昼食をとるなど、すぐにできることを検討し、取り組まれることを期待したい。
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関に鍵をかけない状態で支援しており、開放的である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに避難訓練を行っており、消防署や警察、近隣の住民に協力を呼びかけ、地域の協力を得ている。	○	災害対策マニュアルの随時の見直し、避難場所の確保、災害備蓄品の準備等、支援体制の更なる整備に取り組んでいただきたい。

長崎県 グループホームひなたぼっこ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態や希望により、主食の種類変更やキザミ食、ミキサー食で対応しており、利用者一人ひとりの水分や食事の摂取量を記録している。水分補給を兼ねて、10時と3時のおやつ時間を設けているほか、台所の入口に、自由に水分が摂れるように飲み物を準備している。		利用者が自由に水分補給できるような配慮されているので、見守りを徹底され、飲み込みの際の事故防止に努めていただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が飾られ、あちらこちらに季節に合わせた利用者の作品が飾られている。ソファの配置やマッサージが出来る空間、吹き抜けなど、威圧感なく明るい雰囲気になるよう配慮されており、玄関横にあるサンルーフは、利用者のお気に入りの場所で、音楽鑑賞やおやつ時間に利用されている。また、消臭にも配慮があり、気になる臭いも感じられない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、馴染みの家具や家族の写真、目覚まし時計などの使い慣れた日用品があり、利用者それぞれに、その人らしい居室づくりの工夫をしている。また、利用者の好みに合わせて、居室に相撲番付やスポーツ新聞も置かれている。		